

昭和三十年九月二十五日招集(第百号)

第三回市議會定例会々議錄



館山市議会第三回定例会々議録（第一号）

昭和三十八年九月招集

一九月二十五日（水曜日）

一現在議員三十六名でその氏名次々通り

一番 吉田勇治郎 二番 鈴木正一郎

三番 小柴 孝 四番 館石伝蔵

五番 田中祿郎 六番 秋山大三郎

七番 田村源治郎 八番 望月照正

九番 安西益男 一〇番 辻田実

一一番 石井 正 一二番 黒川佐太郎

一三番 菊井敏博 一四番 志村信作

一五番 小沢恵太郎 一六番 関 武夫

一七番 飯田義男 一八番 西村真次

一九番 藤田好治 二〇番 保科忠夫

二一	番	江田 徳太郎	二二	番	君塚 喜三
二三	番	中村 省吾	二四	番	島野 茂樹郎
二五	番	萩生 田七郎	二六	番	鈴木 孝
二七	番	嶋田 繁	二八	番	山田 敬子
二九	番	鈴木 市蔵	三〇	番	安藤 竜吉
三一	番	安次 徳順	三二	番	三沢 節
三三	番	高橋 文治	三四	番	山本 昇
三五	番	松本 藤太郎	三六	番	山口 康

二 議事日程 (第一号)

第一 報告第九号 昭和三十一年度館山市入会出会算の追加に関する事

専決処分報告

第二 通告賛成

第三 請願書 (経済常任委員会委員長報告)

第四 議案第六号 消防団消防自動車用ボンプの購入について



〔議案第八十七号〕 消防団消防自動車用シャシーの購入について。

第五 議案第八十八号 救急車の購入について。

第六 議案第八十九号 消防団員用被服の購入について。

第七 〔議案第九〇号〕 水槽付消防ポンプ自動車用シャシーの購入について。

〔議案第九一号〕 水槽付消防ポンプ自動車ポンプ購入について。

第八 〔議案第九二号〕 市有財産の処分について。

〔議案第九三号〕 市有財産の交換について。

第九 議案第九四号 寄附の収納について。

第十 議案第九五号 蛇切簡易水道本管新設工事請負契約の締結

について。

〔議案第九六号〕 蛇切簡易水道取水施設工事請負契約の締結

について。

第十一 議案第九七号 千葉市外九十九市町村の軽自動車税の賦課徴

収に関する事務を行わう取員の差同設置

規約の一部を改正する規約の制定について

第十二 議案第九八号 自由市市税条例の一部を改正する条例の制定について

定について

第十三 議案第九九号 自由市国民健康保険条例の一部を改正する

条例の制定について

第十四 議案第一〇〇号 自由市消防団員等、公務災害補償条例の

一部を改正する条例の制定について

第十五 議案第一〇五号 自由市小学校講堂改築その他工事請負契約

の締結について

第十六 議案第一〇六号 自由市中学校技術科室増築その他工事請負契

約の締結について

第十七 議案第一〇七号 自由市高等専修学校化学工業科校舎増築工事

請負契約の締結について

第十八 議案第一〇八号 昭和三十八年度自由市市税入金支出追加更正予算

第十九

議案第一〇二号

昭和三十一年度館山市特別会計と奇場追加  
更正予算、

議案第一〇三号

昭和三十一年度館山市特別会計休養施設入  
入支出追加予算、

并

議案第一〇四号

昭和三十一年度館山市特別会計工水ステル  
入支出追加更正予算、

一、法第百二十一条による出席説明員

市

長

本

内

張

助

役

小

出

武男

収

入

役

完

戸

貴

総務課長

山

口

実

秘書課長

小

倉

澄男

税務第一課長

高

木

哲三

税務第二課長

多

田

俊一

厚生課長

吉田耕一

商工水産課長

長谷川広治

福祉事務所長

鶴沢貫寛

観光課長

小沢正治

保険課長

池田亮山

農産統計課長

伊藤幸太郎

市民課長

羽山房雄

建設課長

新井重助

選挙書記長

大島重義

企画室長

谷貝茂生

生涯診療所  
事務長

岩崎一郎

消防本部次長

岩田 実

教育長

工藤和平

庶務課長

干場伊右衛門

一本議会の事務局長、事務局長補佐、書記及び取員

事務局長 高梨青一

事務局長補佐 太田博雄

書記 兵藤恭一

取員 錦織隆子

出席議員 三五名

欠席議員 一名

二三番 君塚喜三

午前十時七分開議

議長(黒川左太郎君) 本日の出席議員数 三十二名

こより第三回市議会定例会と明令にします。

本定例会の議案説明のため、本町市長、小出助役、定戸

収入役、山口課長、小倉課長、多田課長、小沢課長

長谷川課長 新井課長 羽山課長 伊藤課長 池田課  
長 高木課長 吉田課長 鶴沢所長 谷貝室長 大嶋  
書記長 岩田署長 岩崎事務長 工藤教育長 千場  
課長 利田課長 以上の出席を求めましたので報告い  
にします。

会議録署名員う決定を行います。

本定例会の会議録署名員を四番議員 館石伝蔵君 三三  
番議員 高橋文治君 以上兩君を指名いたします。

これに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)此異議なしと認めます。よつて以上の通り  
決定いたしました。

会期う決定を行います。本定例会の会期につき議  
会運営協議会の意見は本日から九月二十七日まで三日

間ということでありませう。

お口よりいただきます。

会期を三日と定めますことに中々異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

中々異議なしと認めます。よつて会期は三日間と決定いたしました。

七月八月九月の監査報告はお手元に配付の通りであります。今日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。こゝより本定例会招集に關し、市長の説明を求めます。

(市長 本間謙君登壇) (拍手)

市長(本間謙君) 本日ここに第三回定例市議会招集に際し、本定例会招集に關し、市長の説明を求めます。こゝより本定例会招集に關し、市長の説明を求めます。



上程議案は、昭和三十八年度一般会計歳入歳出予算の追加に关する専決処分、報告について地方自治法第百七十九条第三項の規定により市議会に報告一件、その他契約関係では消防団等の消防自動車、救急車被服の購入について六件、教育関係では館野小学校の講堂増築工事、第二中学校、技術家庭科教室増築工事及び館山高校工業科校舍増築工事の請負契約について三件であります。

水道関係については、鉈切水道新設工事二件、また館野農業協同組合との間に取りかわす予定であります。市有財産の処分交換に关する二件、寄附自動車の收受について、その他条例規約関係の議案といいたしましては、軽自動車税の賦課徴収による共同設置の一部改正、市条例国民健康保険条例、消防団等



公務災害補償条例の一部改正でございますが、こゝらには、関係諸法令の改正に準拠して市条例等を改正するものであります。

その他予算関係につきましては、一般会計の追加更正予算千三百八十万円、特別会計三件を上程いたしますが、各議案につきましては、各課長をして詳細な説明とさせていただきます。よろしく慎重な中審議をお願いいたします。次でございします。

議長（黒川佐太郎君）日程第一報告第九号。

（書記朗読）

報告第九号 昭和三十一年度館山市歳入歳出予算の追加に關

する専決処分報告

・農産統計課長（伊藤幸太郎君）本件につきましても、説明申し上げたいと思ひます。

去る七月と八月にかけまして農地改革によりますところの  
農地等々調査の事務が早速に国々方から委託を受け  
たのでございます。その点につきまゝで義会におかれ  
まゝ、追加をお願いする暇がございまして、専決  
処分によります追加予算をお願いいたるわけございま  
すので、本日、報告申し上げ、承認を得たいと思つて  
でございます。

追加予算の内容をつきまゝで若干申し上げますと、今回、委託  
事務につきまゝで概算四万一千円、補助金、交付を  
見込みまゝで、それを財源といふまゝで、その範囲内に  
おきまゝで、臨時用人、賃金、その他関係の各  
節にわたります予算の配分をいたし、四万一千円  
内で追加をお願いいたるというわけでございます。  
以上、ようひ次で専決処分いたし、まゝで、自治法の

規定によりヨリて本日や報告申し上げたり承認得たいといふわけでございますのでよろしくお願いいたします。

・議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

本案は、討論省略原案通り可決いたしますことに決  
議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本  
案は原案通り承認と決定いたします。

日程第二 通告質問、こより通告による行政一般質  
問を行います。

一、番議員(田実君)登壇願います。

(一、番議員(田実君)登壇)(拍手)

一、番(田実君)館山市におきまうところのスボーツの振興  
対策につきまうてや質問申し上げたいと思ひます。

来年度の秋には日本で初めてのアリソンピグが東京で開か  
れるわけがございしますが、これに際してスポーツに對す  
るところの国民の関心は非常に高きつておるわけがござい  
ます。

特に館山市におきましては、水泳をはじめ柔道において  
優秀な選手を擁する関係から特に著しいものが  
あると思ひます。

こういふ中におきまして昭和二十九年には、県民大会に  
おきまして総合優勝を成し遂げさらにその翌年には  
神奈川県で実催されたところの第十回国民体育  
大会におきまして社会体育優良団体として表彰を  
受けておるような実績を保持しておりますところ、当市  
におきましては今日まで他の町村におきましては体育課を  
設置してまゝとして体育行政を独立させておるにもかゝら

らず、館山市におきましては、社会教育課の中に体育課を併用さるゝ行政をつかさどつておりまして何ら支障がないのかどうかという点についてまず、中實向申し上げたいのでございます。

二番目には館山市においては、いかにして学校スポーツと市民スポーツを行政指導するまいとか、お伺いなのであります。

即ち、中学校をはじめとする各種体育大会を開催するに当り、当市はほとんどこの運営にタッチせず、体育協会の各種部会にすべてを任せ、状態において委任しておるが、実態でございます。こゝでありましては、学校教育の精神に反するような危険が今後生じないかどうかという点についてお伺いしたのでございます。

また、市民スポーツの振興につきましても、昭和三十六年以

スポーツ振興法が制定されております。

館山市も体育指導員を選びまして、このスポーツ振興法に基くところの体育指導を以て参考して参りますけれども、その経過と実績について、具体的にお伺いしたいと思います。

第三番目には、館山市におきましては、もつともすべからぬ選手が多いにもやわわらず、なぜ体育設備が充実して来ないのか、お伺いしたいのでございます。昭和二十五年に八幡プールが設立された以外に市立の体育施設はほとんど見られないのでございますけれども、プール以外に市立の体育施設がどれくらいあるのか、詳細に教えていただきたいと思っております。

学校は体育施設の指導についても特に学校プールの建設については、スポーツ振興法の中で即ち第十二条におきま

して「国及び地方公共団体は体育館・水泳プールその他の  
政令で定める施設が政令で定める基準に達する  
ようにその整備に努めなければならない。」というわけであり  
ます。にもめめならず、館山市の小・中学校には、細小  
学校にプールが一つあるのゆだと伺っておりますけれども、  
こゝ点はいかがですか。県下には、五百七十五の小学校  
にプールがございます。

中学校におきましては、二百八十一校、持つてあるうでござい  
ます。

安房郡の小学校におきましても、五十八校、中学校に  
おきまして、何と三十三校あるのが、実情ではございませぬか。  
私は、現在、二中をはじめ一中、房南、神余等、多くの学校  
にプール設立の希望がございまして、伺っております。  
そうであるが、学校におきましては、設主委員会を依り

さらに資金が積み立て等も始め、一部事業についての着工を始めておるところもあるやに伺っております。

それにもめめわらず、市当局がこれら希望を持っておりますところ、学校に対して、全く希望にそえない態度で取り得ないということも伺っておりますけれども、この点はいかがなものであつたかというのでございます。

また、一昨年大洋ホエールズの森球団社長が館山市に参りまして、野球場の造成について交渉をいたしたと伺っております。その話はその後、どのようなふうになっておるか、そのうち現在館山市におきましては、野球場を作る気持があるのかどうかお伺いいたしております。

総合グラウンドにつきましても、作りたいという意向は、何度もお伺いしておりますが、一向にできそうもございませぬが、いつ頃、どう程度うもつて作るのか、意向がおりま



ーから伺いたいと思うのでございます。

才四番目に熊山市はスポーツをどうしようにー々位置づけ、見  
ておるのか、伺いたいのでございます。本間市長のいう観  
光と産業と教育の振興、十万都市の建設構想、中に  
ある教育の部分、中にスポーツは含まれておるのかどうか、  
私は伺いたいでございます。

そう、中に体育協会をとりめとするスポーツ施行の人たちは、  
大々犠牲をはらって、スポーツの振興に参与してゐることに  
関して、市はこれから、中にスポーツ施行者、さらには、ス  
ポーツ団体に対して、中に物心両面の指導を援助をして、  
やる気持があるのかどうか、伺いたいのでございます。  
最後にスポーツ振興法が四条三項に「都道府県  
並びに市町村は教育委員会は、文部省の基本方針  
を参照して、中に地方の実情に即してスポーツの振興

に決する計画を定めらるものとす。というふうにならわ  
いております。従いまして、篠山市の実情に即した

ところのスポーツ振興計画を法律に基きまして立  
てられておるかどうか。お伺いいたしております。

そうしてその立て方、たところの計画の内容を詳しく教  
えていただきたいのでございます。さらに先だって九月

十八日に文部省から発表されたところの体育施設、  
整備五年計画を市は具体的に取上げていく

意向がどうなっているか伺いまして、私に質問を一つ終り  
たいと思っております。

・教育長(工藤和子君)大部から市質問が教育委員会に決  
係がございすので、私からお答え申し上げます。

市質問の第一点は、体育課を設けない理由。こういうこと  
でございすが、これは市当局が答弁ねだと思ひます。

けれども、私の考え方といえましては、体育重視の面から  
体育課が独立さへいたしてもせめて、その行政指導に当ら  
おりますところの主事の位置づけと申しますか、格づけ  
と申しますか、この昇格を願ひて、さうして体育  
振興のいしづえにたいというが、かねてからの念願で  
ございまして、市当局に継続して願ひていゝわけでご  
ざいます。

第二点の學校スポーツと市民スポーツの行政指導面、こ  
ういうや實向でございしますが、學校・スポーツは申すま  
でもひとく、學校教育課がその行政指導に当たつてい  
るわけでございます。

いわゆる具体的に申し上げますと、指導主事という  
のがおりまして、今回は相当權威のある果の指導主  
事が増員さへございまして、この指導主事によつてすべての



教科の指導面に當つてゐるわけでございます。

なお、そのまゝ、体育、音楽、美術、学校におきましても、専任の体育教師がその校の技術の指導に當つてゐるものが、実情でございます。

市民スポーツに關しましては、これは、やはり指導のありまゝ、たうくに、これはだ至らぬ点があると思ひますけれども、係の主事が鋭意努力をいたしてありまして、連絡面では、まず、支障がないというふうに私は考えております。

ただ、学校教育に支障があるのではないかというや實況でございます。私は、現在はないと思ひます。と申します。これは、学校の施設を市民スポーツ団体が借り受け、けることは、ひんぱんにございますけれども、学校の立場から申しますと、学校の授業、学校行事、学校運営に支障がないときに限つてこれを借り与えるというたてまえ

でございます。で、学校、授業、そうものには、支障がない  
というふうに思っております。

ただ、市街地の学校、グラウンドが土曜日の放課後乃至  
は、日曜にひんぱんに使われておるが、実情でありまして、  
そのために、広い遊び場を持たない子供たちが、そのスポ  
ーツが行なわれるたびに自分たちが、遊べないという不  
満をもらってある実情がございます。で、これは、市の市協  
力によりまして、子供たちが、遊戯場でありまして、か、そ  
ういう場所の新設を我々としては、お願いしないわけで  
ございます。

なお、市民スポーツの指導でございますが、体育指導員  
というものがございまして、これは、十一名ございしますが、果  
然、指令をもらいまして、そうして各市町村の指導にあた  
るわけでございます。市の指令が出ておりません関係で



市から寺堂を出すということができてないわけでありまして、  
明らぬに旅費等につきまして費用や償等の償いをして  
いていふというような実績で、実際は非常に重取であ  
り、ひんぱんに仕事を願ひておるにもめめわらず、  
報いることが物質的にはひだ薄いということについ  
て、我々今後の課題があらうかと思ひます。

この体育指導員の確約によりまして、市民スポーツが  
あずかに指導を受けられておるというふうに考えざるわけ  
で、ございます。さらに我々青少年健全育成の一つの  
働きといひまして、各地区ごとに各種スポーツ運動とい  
うものの奨励をしていふわけでございます。これは、公民  
館長、分館長、副館長であります、学校の先生、これら  
が中心となって部落等の催しの中心になります、関係上、  
効率的に学校、先生がタッチ、これを指導してゐる。

こういうことがいえるかと思ひます。

第三点、体育施設がほとんどないのではなからうか。こういうお話でございまして、これはお説の通りでございまして、市営プール以外にはないような実情でございまして。

なお、学校プールの点に触れらるゝが、学校プールの点につきましても、我々は各学校にプールがあること甘が本来であると思ひます。ただ市の教育予算に限度がありまして、三十九年度以降、学校施設整備長期計画といふものを現在立案中でございすけれども、やはり案内のように現状の問題点といふ一として、義務教育関係で危険校舎が非常に多いのでございす。

これは二十校のうち十七校、三十一棟というおびただしい危険校舎がございす。さらに技術家庭科の肉類、屋内体育館の問題、給食堂の問題、学校







は、いかどうかということにつまりては、ただ今申しました長期整備計画の實現と相まって考えるべきものと考えるわけでございます。なお、申しましたスポーツ振興法は要するにスポーツ人口をふやすことが眼目であらうかと思ひます。

従いまして、市民の多数が気軽にあらゆるスポーツに参加できるように我々が奨励していくべき義務があると思ひます。そのためには、環境の整備ということも当然必要なりわけでございますので、我々は、その整備と相まってあらゆる会合に積極的に市民が参加するように今後むね一つそう呼びかけていきたいと考えてございます。

現在考えております計画といつては、五月に日本体操祭、八月に市民体育大会、九月に国民体育大会、十月に県民体育大会がございまして、これに非常に期待をわけておるわけでございますが、さらに十一月

に入り、そして文化祭に参加。来年度の月に鑑山荘のヨ  
ット大会、九月の市内各地に於ける体育大会以上のような  
大ざっぱな計画でございすけれども、できる限り我々  
の手によつて市民があらゆる機会にスポーツ振興に参  
与できるように今後努力したいと考えております。

・市長（本町護君） 市議員さん、スポーツ振興に対する  
片賛同でございすすが、スポーツの振興はいろいろございま  
すけれども、まずスポーツをやる場所を拓くことが非常に  
重要ト云ひたいと思ひます。実は、現在非常に市の財政  
が苦しいでございすすが、国体が四十二年にございすか  
ら、国体までには、体育館兼市民館、それなら、そこに場所  
がよければ、総合運動場、こういうものを作りたいと考へ  
まして、来年度から、予算を盛り込んで計画したいと考  
えておるわけにございす。

それからプールの問題でございますが、これは、徳山市には、  
宮城に市営プールがございます。現在、神余小學校、二  
中等から、柱がございしますが、これにつきましては、非常  
に財政が苦しく、現在、房南中あたりは、柱が腐ろ  
今にも風がくれば倒れるような状態でございます。こ  
ういう危険、接合もあつたわけでございます。なかな  
か財政が困難でございますが、いづれにしましても、来  
年より早ければ、二年で済んでも、三年の間には、市営の  
総合グラウンド兼スポーツセンターというものを作りたい  
と考えております。

・助役(小出武男君) 大洋球場の賛助でございますが、  
これについては、私が知っている限度で申し上げたいと思ひ  
ます。

もともと、先日どから、お柱がございまして、ように、徳山市

スポーツ関係の施設が非常に少ないということと、一環  
 といいたまう。かねてから、野球場の設置を要望して  
 おります。

これはもちろん立地的に冬場でも使える。東京に近  
 い。さらに市全体から申しますと、臨海施設が非常に  
 難し沿岸に多いわけでございますが、こちらを活用する  
 上に、もう一つも学生、その他を中心として野球場がほし  
 いという念願は、数年前からあったわけでございます。  
 たまたま三年位前でございます。たまたま、大井の森を長  
 から、館山で橋当りところは、いいか、こういうことでござい  
 ます。で、確か一回ほど現地を見に参ったことを記憶し  
 ております。このときには、大井球場と一々使うわけ  
 でございますけれども、年中使うわけでないで、あいている  
 ときには、市で使うという程度で、結ぶすが、場所を

高井地光を中心として見たうでござります。

それでなんならいま一応小滝一軒なんですが、この方に実はお願いいーヨーマ。土地の獲得が可能なりや否やということをお願いいーからであります。非常に秘密なうちに折衝して、もううという約束であつたので、たまには新聞に報道さし、一応ので、折衝が非常に難航いたるヨーマ。小滝さん自体も山におつかりまして、そうまじになつてしまつたうでござります。

それで、そのときの大井の要望と一々では、土地は地元で提供してもらいたいということを確認してゐると思ひます。当市の財政事情から申しましても、野球場用地の獲得ということに難航が予想されたいので、そうまじになつてゐるというのが実情でござります。私、直接折衝に当りませんで、私が知っている限度を申し

上げます。

一、番(辻田実君)ニ三について、補足説明をお願いいたし  
たいと思うのであります。教育長さんの方から体育課  
の設置につきまゝでは、主事の格づけをいく中でもう  
ていたという意向であります。こゝらについては  
市の執行部の方からいうこととございしますが、主事の  
格づけによつて体育課の設置をすまの如くないかといふ  
ことなんです。私も先ほど申し上げましたように千葉  
県内のほとんどの市が体育課というものを持つてお  
り、スポーツ振興法が来たときに多分各市町村にお  
いては、体育課を独立させて、どうも体育指導をす  
べしだといふことが述べられておつたことを私は記憶してお  
りますけれども、その点について、体育課を持つて体育指  
導というものを、専任的にやうていくのかどうか、熊山市の

体育というものは、千葉県が県体が始まって以来、十数年  
間、完全総合優勝一回、その他二十の団体が各優秀な  
成績を取っており。

私も、体育団体に携わっており、県から、市はそういう  
仕事をしなくてはならない。中学校の野球大会にしろ、全部野  
球協会なり、柔道道協会におんぶしなす。

市に連絡すると、たまたま印刷する位がせいぜいだ。報償  
金は、賞品の一つもくれないといふこと。で、体育協会  
には、金がない。そういう職行者の人たちが金を出し、金  
つて、やってきているという実情を私はもう少し理解して。  
いたただけじゃいけない。ではないか。従いまして、私  
も先だつてから、千葉県体育大会におきますところの  
実績を見よう。たけいとも終戦直後から以後二十五、  
六、年頃、館山市は非常に優勝回数が多い。

でございますが、最近は大変衰微してゐるが、そういう面においても現われてゐておるのではない。

私はここでもって、館山市は特に産業観光というものと合せて体育というものが、館山市の取り得ではないか、というふうに考へてゐるから、私は体育というものをやはり学校教育と同じ水準に引き上げてやっていた方がいいわけですよ。この点についてもウレシ。具体的に伺いたいわけですよ。そういう観点に立ちまゝて、先ほど学校プールの新設がでない。また、いろいろな設備がでないということを申されております。確かに危険校舎がたくさんあるということは聞いております。館山高校の県立移管ということも、幼稚園のことなども聞いております。メーカーからこういう問題は、急に発生した問題ではなく、従来からこういう事態がくるということは、予測できておったと思つて



さらに私は、二中、プールの問題や神余のプールの問題に関  
しては、鎌倉市にそう多く予算的処置を要求  
してゐるのではないと思ひます。

スポーツ振興基金法にもきますところの第三十条、第一項  
の中に「学校、プール施設については、三分の一の補助金を享  
える」ということが出ております。九月十八日、このスポー  
ツ振興法に基くところの実際の活動があまり行われ  
ておらないので、文部省は、五カ年計画を依つて二十九億  
円の予算を計上して、今後これらの解決に當つていきな  
いというようなことをいつております。従いましてその計算  
でいふと、これから五カ年間に学校で依るところ  
のプールに対しては、一つ当り二百万円位の補助金が当  
然なりでもいい計算になるわけでございますけれども、こ  
ういふ点について、研究されておるか、ただ予算がないとい

うことのように私は伺えまわけてございます。

特に房南中におきますところのプールの払い下げ問題、今日におきまゝでは房南中プールは使つてはいけないうものゝ内蔵で使つておるような状態でございますから、これらに対しまして一度、市当局が管財局の方にいつて話し合いを、工合がわるいということとで投げておりましたが、正式に払い下げ申請を起ておらぬのでございすけれども、これらの点についても何ら学校当局、またP.T.A.の人たちに生かさないということについて、ずいぶん荷がはしい。二中の関係者等と話し合いをいたした。

神余小の問題も話し合いをいたしたが、市もえ、その気になつてくれば、国の補助金ももらつてもらえれば、学校が私有財産の売却、そういう面でも市からわずかの予算をえましてもらえば、でまゝではないか。それらを予算

がないということだけでけつておるということについては、全く理解に苦むということをおは伺っております。この実情はどうか、以上二点、市がそういう要望について逃げておきただけで、積極的に取り組まないかということについてとりあえず、市費内いかにいわけでございます。

・教育長(工藤和平君) お答えいたします。プール、施設につきましても二百万円、補助があるはずだというお話でございますが、これは法律では三分の一というふうになっておりますが、文部省が市界内のようにな大蔵省の査定を怪しまる大減幅に削らざるわけでございます。さらにそれを都道府県に配分するわけでございます。都道府県は学校の希望数によつてさらに配分する。従つて希望の多いときには必ずしもそういうふうにはならない。せいぜい三十万位ではないかと思ひます。市によつて違います。

房南中アップルの問題でございますが、これはいつかの議会  
で中街報告を申し上げたが、国有のものであり、学校  
のすぐ隣にわり防大面にも約五つ、こういう観点から  
適正な安い値段で払い下げしてもらって、学校の方  
めに用いたいという念願でございますが、なかなか建設  
局は、わけ引きがまま、そうして適正価格を示してくれない。  
い、そういうことで、今のところいき込んでおりますが、今後  
我々の長期計画をくらみ合わせ、この問題を解決して  
いきなれと思つております。

体育課設置のお話でございますが、私も当然、そ  
れはお願ひしたいところでございます。ただ市の財源を  
考えておりますので、一かも人件費の増という面から  
市の出方を静観しているということでございます。ま、でき  
れば、拡大してもらつたことが、市のために、我々教育の面

からも望ま—いところでございます。

○一々番(辻田実君)今も教育長さんの答弁でございまして、  
長期計画の中でやヨということでもございまして、そういう面  
でもって何かいろいろ関係者がいつてもあまり明解な  
答えは出ないというふうに思いうわけでもございまして、特に  
先ほど申した二中、秀南神余、こういうことについては、  
具体的に話をしてやってその後、予算的な問題につ  
いて、教育的に合わせていくようなことはできないのか、  
お伺いしたいわけでもございます。と申しますのは、確かに  
秀南中のプールが払い下げに關—ましては、市からき  
ていろいろな交渉は—た経過についてお伺い—まして  
そう—でその中においては、やはり国の規定から申—ま  
—て払い下げの場合に么是価格というものを定まらな  
ければならぬという規則があるので、それは示さなければ



はひらぬというふうについておつたそうでございます。

一かーながらおひ下げ申請書も出ていっているうちに、  
 価格を幾らだということとはきめられない。従つて申さな  
 いのだということをお願いしております。従つてそういう特  
 殊な問題については、文部省等々折衝に対しては、一々ま  
 ほど各一校当りのプールに対する補助金は確定してま  
 おつて、按分するもので予算的には、二百万位あるところも  
 実際には、二、三千万だという効率的な面からいわれて  
 おりますが、そういう配慮ができておるものについては、補助  
 申請をすればおひ下げ価格の中で必ず考慮ができてま  
 いるという点も私は、専断的な方から伺つております。  
 そういう面の話一合いというね、本当に教育委員会々と  
 こにいつたらしいのか。そういうこともわからないうこと  
 で、館山市の体育行政ということにそういう問題がある。

一つ、体育行政の中でもって本当に突きとめて、房南中の問題もそうでございます。二中についても市が金を出さなければ相当数の金を集めてでも我々は実現していかなければならぬというような意向まで持っているにもかかわらず、予算がない。長期的な計画で考慮するというだけではいつにいつても私はプールもできなければ体育施設もできない。今度の文部省の計画の中にもいて四百名も学校においてはプールを持つという国の基本方針がある。そういうことの中において千葉県下でも千数十校の学校がプールを持っております。鎌倉市は海が近いからいいということであるが、安房郡でも千倉、自狭はプールは全部持つてゐる。そういうことであつて、長期計画の中で考慮することでは、これからこのように教育、体育行政については、本当に市として誠意

がない。こういう点について考えてもらう必要がある。そういう点についても一度伺い、質問を打ち切りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

・教育長（工藤和平君）プール建設についてどこに話を持っていったらいいかわからないという中意見でございますが本質としては、教育委員会に持ってくるのが本筋だと思います。私も担当でございますので教育委員会へ意向を申くうが当然だと思います。

そういう観点からお話をあり、二中プールについても私う考えを先ほど申し述べましたように、観点からはつまり申し上げておきわけでございます。

神余小・中・高校、プールにつきまては先だって校長から申請という形でプールを作りたい。作る計画としては、区有林の売却した金がある中でそれを中心に作ります。

たい。ただし、果て補助があるはずだから、それについての助力  
をもらいたいという校長さんの話でありまして、これはも  
う本年度は配分になった後でございますので、新年度でござ  
います。一応、このときに教育委員会にはかりまして、大体  
その線で行くように議決にはなりましたが、そのような話し合い  
になっております。

なお、こよらのプールの建設につきましても、もっと積極的にやれ  
ということございまして、その線にそつて我々は、市当局に強  
かに請願したいと思ひます。

・議長(黒川佐太郎君)以上で通告質問は終りました。  
暫時休憩いたします。

午前十一時七分 休憩

午前十一時二十分 再開

・議長(里見佐太郎君)休憩前に引き続きの会談を閉じます。

日程第三、請願書と議題といたします。

本請願書は、去る七月二十三日招集の第四回市議会臨時会において、経済常任委員会に内会中、審査の特別付託をされたものであります。

よってこゝより、経済委員長、の委員会における審査の経過並びに結果の報告を求めます。

(三一番議員 安沢徳順君登壇)(拍手)

・三一番(安沢徳順君)七月二十三日招集の第四回市議会臨時会において、内会中、審査の付託となりまして、東京湾埋立反対に関する請願書につきまして八月二十九日委員会を招集いたしました。

その審議の経過並びに結果について、ご報告いたします。



請願書の内容といたしましては、イ、ロ、ハ、ニの四項目に  
かけられておるりでございまして、従つて審議におきま  
しても各項目毎に行つた次序でございします。

第一項の東京湾埋立反対の件につきましては、過日の本  
会議におきまして、紹介議員さんより説明うござい  
まして、通リ、京葉工業地帯等の埋立により、富津より  
三崎沖以北の通場が潮流の変化と汚水がひどく殆  
んど壊滅同様となり、揚藥による東京湾の漁業  
が不可能となり、よつて東京湾・埋立による直接の被害  
は、船形、揚藥にあると云ふことで、たゞ現在の漁業全  
体から考えますと、被害の原因は、ひとり埋立による  
ものばかりでなく、最近には全般的に回遊する魚類そ  
のものが、少なくなつてゐることも事実であります。

なはんづく東京湾埋立は国策であり、果ににおいても全

面的に推推しているとき、一經山市議会が理立反対の決議をすることが果して妥当なものであるかという点におきまして、疑問があるのでございます。

たゞ、理立により漁場がせめられてきたことは事実でございます。

その爲にまゐる補償、転業就取等の問題がある程度考慮しなければ国策といつても全面的に賛成するということとは、議会として考えなければならぬのではなからうかという意見もありました。

次に第二項、柳参り、静岡へ入漁の実現の件でございますが、これはすでに県におきまして、漁業調整委員会において、強かに接衝中だそうでありまして、なほ、業者間においても、話し合ひをするふうとの果し意向でございます。

第三項の灯大漁法、制限解除について、静岡では灯大漁法は認められてゐるが、千葉県では海面漁業規則規則によつて禁止事項になつております。

灯大漁法はもともと一本釣りとは相入ないものであり、この制限解除がなされた場合、船形、あぐり対船形、一本釣りと、問題は解決出来ても、千葉県果全体の一本釣り業者との権衡上、問題をひきおこすおそれがある。

従つて船形、あぐり組合についての、灯大漁法を果が許可することは考えられない。

よつて当組合において、この制限解除の決議をすることについては、疑問があるであります。

次に第四項のあぐり漁業に対する今後、育成等については、すでに船主組合からの請願等に対し、市

と一では、強かに交渉をやっております。

又、館山市の産業におけるふぐりの占める割合は非常に大きいものがあり、市と一でもこの育成について短波無線の設置等幾分でも救済になるよう努力してあります。

一か一 現在のふぐり漁業はすでに削り角にきておる。こゝ様なことを考えますとき、漁業者は、不漁期の転業等積極的に考えて行かなければならないと思うし、又市と一でも果と共に転業、就転等の問題について強かに指導していくよう委員会と一で要望いたしました。

以上、各項目に亘り審議いたして参ったわけでございます。

本請願書について、委員会と一ヨ一では、第二項、第

四項については何等異論はなかつたのであります。本  
請願書の骨子と思われる第一項の東京湾埋立反対  
の決議をさよにということであり、更に第三項につい  
ても疑義をもつもので委員会としましては、慎重審  
議の結果、本請願書は保留ということに決定いたし  
ました。

以上委員会におきます審議の経過並びに結果につ  
いてご報告申し上げます。(拍手)

議長(黒川佐太郎君)委員長報告に対し中質疑ごさい  
ませうか。

・三番(中村有吾君)只今の経済委員会報告を聞いて  
参りますと、中努力を以て審議された面は、見受けら  
れるのでございますが、委員会におきまして一体この  
請願書の流しは、揚陸が何を期待してあるのか、また



現状の揚葉煙は、どうなつてゐるか。こういうたような点を  
どうように一々詰り合ひやつて審議なさるのかどうか。

この點一點お伺ひたいわけでございます。

と申します。が、請願の要旨としては、東京湾埋め立  
てによつて漁業がせばめられたといふことは、認めざるを得  
ない。面積が狭くなるのでございますから、当然でございます  
ますが、そうあとでいひつてゐる報告書の中では、このこと  
は東京湾における鰯が取りなくなつたことは、埋め立て  
からいふから漁獲がなつたといふことはない。

このことは日本全国一般にいひつてゐることであつて、従つて  
埋め立てたためらいが取りないといふことは、あり得ない  
こういう議論を下さつてゐるようによつて見受けらるゝのでござい  
ます。

私、この點につきまゝ従来、埋め立てすゝ以前、あつた

漁場と一まゝとは、いわゆる八月から十二月まで揚陸網が昭和十二年から二十三年頃までに千葉から大体東京右岸にかけての地域が木更津沖から千葉沖、この附近が一番いいわりの取れた場所でございます。

そう一に場所が昭和十二年から二十三年頃まではあつた。ところがその頃には何が取れたかというところ、大羽いわりも取れろー背黒いわー、その他すぐき、こはだ、こういうものまで豊富であつたのであります。ところが最近におきまゝではこの煙め立てによつて木更津からちうどその対岸川崎のあたりぐいにかけてのこの北には全然魚がいなくなつた。すぐきだとわ、こはださわらというものがまで取れた。ところがこはだ、現在におきまゝでは、稚魚すら見当らなくなつてしまつたという現状でございます。

兼昔はこの地域において操業すると千葉沖から川

崎、沿岸にわけての浅海におけるフランクソンの成育によつてこの稚魚がわつたわけです。現在では、その姿を見ることができない。このことは、やはり東京湾における煙め立てによつて海面がわくなつたことと、浅海がわくなつたことと、こゝに違ふところだ工場汚水によつてすぐ稚魚の育成が不可能になつたということを証明するものであります。従つてこのことによつて魚がわくなつたのではない。こういうことは絶対にあり得ないということはいえると存するものであります。

なおかつ煙め立てすればここに潮流の変化も起ります。従つて魚もこわくなる。現在、採集地域としては木更津から本牧にかけてで、こゝから南へなけりば採集できない。こういう状況になつておるやうでございます。

なお、いわしというものは、回遊性を持っておるやうでございます。

けれども、その意が従来一番真に地域まで入ったものが、途中で  
回りつてしまふ。当初、館山湾附近から、千葉県ぞい、国府  
へくるのでありますが、それが秋にかけて、神奈川県より、  
逐次東京湾から出ていく。こういう習性を持つてゐるよう  
でございます。それが何のために千葉沖に入つていけないの  
入つていけないから入つていけないのでございます。

このことはやはり、何といつても埋め立てによつて、魚、回遊  
を阻止したということがいえると思つてあります。

従つて、こういう点に対する委員会として、検討が不十  
分ではなかつたかと思つてあります。

そういう観点からするならば、この揚子江がこういう埋  
め立てによる直接の被害であるといふことは、いえる  
と存するのでございます。

そういう点に対する討論の経過を今少しだけ説明願

いたいと存ずるのでございます。

・三番(安沢徳順君)先ほど申し上げましたように何うために  
魚が取れないのかということでございますが、先ほど申し上げ  
げました以上はどうも専門家でないのでどうも申し  
上げられません。

でさうば報告申し上げました通りになりました承願いたいと  
思ひます。

・二五番(荻生田七郎君)又今、委員長が報告を承りまして  
結論的には、私は委員会が決定はせむを得ないと思し  
ます。又、安々と申します。かゝるうちに承りました。あり  
ます。ただ、只今紹介議員が一人であります。中村  
議員から質問がありまして、的確に埋め立てに  
伴う被害とマデーターがふさふさと決定したならば、当然  
これは、補償の対象になるのではなからうかと思つてござい



ところが、請願を県議会に出しても、その結果はなにもわく  
ない。また、関係方面に陳情いたしても、その結果はなにも  
わくない。一方に於いて現実には、揚梁烟業者は食う  
や食わすの塗炭の若みまといふというが、現実の姿  
であらうと思つてあります。

そこで私は膨大な予算を投入して国策として或いは、  
果敢として二次産業育成、埋め立ての造成に推進し  
ておる国の方針を阻止すべき決議は本議会ではでき  
得ないと思つておりますから、従つて、委員会決定は  
やむを得ないとして解する者でございます。ただ委員長  
にお願いたないことは、具体的に漁業の問題、その他強力  
な組合の経済的育成、こうして具体案につまましてま  
らに百尺竿頭一歩を進めて、埋め立てに伴う、それぞい  
の漁業権の補償というものが行われてゐる。これが現

突に揚聲の事業もおびやかしてゐる。それを的確に埋め立てに原因するということが把握されたならば、対象になるのではないかと考えようでございますが、こうした経済的な組合の若秘脱却のために、委員会が審議の過程において論議さる、或いは、市当局にそのことを聞きださなければどうか。その点につきまゝで伺いたいと思つてあります。

三番(安沢徳順君)ただ今の質問に対してお答え申し上げます。

市当局に対して、その点におきまゝで、市としてききだけ考慮しようというような意向でございます。

三三番(中村春吾君)私の質問で的確な回答がでないということでございますので、仕方がないと思ひます。

請願の中、目的に反対して反対のための反対決議

はできない。そのことはわかります。弊道に申し上げますが、  
一かし、国策によつて決まらねて千葉県内において既に工場  
ができ、埋め立てを完了して、でき上つてゐる。このことを反対  
しても仕方がないとは思ひか、このことはわかりまうでございます。  
揚梁湖の諸君についてもこのことを取りはらえということには言  
つていないと思ひます。

一かしなばら。そういうふうにして埋め立てたから、工場が  
進まなからということ、既成事実だということ、で積み重ね  
らねていった場合にどうなるか、ということ、でございます。

その間揚梁湖に対して何ら補償すらなされてない。そ  
れを国策だからどうにもならないという立場で私たち市と  
して、このことを見通していいかという問題でございます。

いかに国策とはいえ、館山市の一番大きな漁業である揚  
梁湖が衰微していくを目の前に見てこれを国策だか

ら如何ともーがたい。私はこのことはいえないと思ふのであります。ーならば、国策でこのようにしておるのだから、こうーならいいのだ。なぜそういう考えがまないのか、ということでございます。委員会においても私はそういう考え方に立つて、当然審議<sup>審</sup>のようが本来の趣旨であらうと存ずるでございます。

従いまゝこの請願におきまゝで、ただ単に、ここで反対決議をすればいいのだということではないのであります。

かように私たちは、今若ーんである。その若ーさを何とかしてもらいたい。これが請願の要旨となると思ふ。

第一項といわれまゝだが、私はそうではなく、いかにしたら、揚藻網が生きていくのだ。こういうことがこの請願の要旨であらうと思ふのであります。まゝで反対決議をしても、

ーなくとも、揚藻網がこうーしていけば、この埋め立てによつて

被害を何とか排除して自立できようだ。その道が講ぜられようなら反対決議をうけてもいい。

そのことが私には本当の趣旨になろうかと思つてあります。なお第二章の問題でございますが、海軍調整委員会において審議中であるという報告でございますけれども、このことは当然委員会に取り上げらるべき問題であります。

従つてなぜ情願という形で出たかということは、海軍調整委員会に市の右前をもつて強かな要請をしてほしいということとをいつておるわけでございます。従つてこれもただ単に今協議中でございますという結論はすべきでないと思つております。

三項、灯台漁業の問題でございますが、これはいわれた通りに率直に私も問題があることは認めます。

ただ、いふんとするところは、今の状態では、そういうことまで

なければ現状のままでは漁場がなくなつて魚もいなくなつて  
 しまった。それに対抗するためには、という道いつめらるゝ形  
 中からこれといつてある。こういうことでございます。

第四項の問題につきましては、市当局が以上のような観点  
 中に置かれたものに対して、どう積極的に対応し、組むとい  
 うことでございます。そのものを私は具体的に申してば、  
 かつた。出すが当然ではなめらうが、ただ努力をいたしま  
 しよう。何を努力にしますか。こういうことが結論づけら  
 れないと請願者に対して親切な審議、或いは情味ある  
 市の施策とはいへない。そういう点で私はこの点について  
 町お、審議の状態がお困らせ願えれば困らせたい  
 なお、や意見があるなら承りたいと存する。でございます。

・三一番(安次徳順君)去る七月十二日でございますが、ここにや  
 考まで申し上げますが、笠巻者側、和泉、前川外四名の方



と市長代理者並びに紹介議員として高橋、佐藤、堀江、  
厚海、四氏とともに県議会議長、知事、水産部長、次長、  
水産、漁政各課長に面接されて詳細にこのことにつきまうて  
請願しておるということを参考までに申し上げておきます。  
・二三番(中村省吾君)これ以上、論議しても的確な答弁はされ  
ないでございしますが、私もうさう申し上げたいんですが、  
果に交渉しておるということは当然揚繰網として交渉す  
るのではありませんでございまして、果に再三、こういう陳情  
を繰り返しておる。そこで、果が親切にこれを取り上げて  
ない。三十九年度におきましては、大正九一号ですが、これも  
廃業してゐる。それから、保田においても六號も採業でま  
くつた。従つて現在、鎌山市においては、四號ですが、その揚繰  
網しかない。そのことを私たちが静かに考えるときに果に對  
して從來何回の陳情しておる。そうすると果がこれを保留

だとか新税審議だとか、そういう形で今まで来た。そうしま  
すとその間においてばたばた倒れていく。現実には、現在の  
ヨリで推移するならば、おそらくこれはみな廃業する以外  
にたつてくまらう。

果はそうなららには、望んでいる方向ではないかと思うので、  
削減していったら、たとえば、その中で、そういう形が取らね  
ては、ないかということが残っているかではございませう。従  
来から考えるところ、如考えられないのでございませう。

従つて、この点において、市におきましても、こういう実情を  
考慮さうして、市独自の立場から、これを支援する方  
策を立ててほしい。

これば、精願う骨子になるわけでございます。

なお、もう一点申し上げますと、委員会においても、数々の  
な問題を取り上げておられないようでございますが、私が把

握した中で申し上げますと、すぐになくなった大網一号におきま  
しては、こゝが煙め立てて、以後におきまゝ、一千万円からう  
水揚げが減つてゐる。この大網については、廃業してしまつた。  
その他長寿網等におきまゝでも、三十五年には、二千万万円  
の水揚げに対して、翌年には、千七百万円、こういう漁獲の減  
減少を見てゐる。そうふうに年々漁獲が減つてゐる。

当初私が申し上げたように、千葉沖におけるいわゆる  
大網いわゝとか、すずきとか、そういうものが皆無になつてきた。  
こういうふうな現状で、依然はいわゝを獲すわけですが、獲し  
たいわゝについても相当な収入になつてゐた。

現在では大網いわゝは取れない。えさいわゝ一本だ。

そういうように漁場が縮小さへ、魚の種類も縮小された。

そういう形になつておきます現状を見たときに、国策だから  
云々ということになり、国策であればこそ、そうかげに泣く

業者というものをもちともちと市が真剣に見てやる必要が  
あるのではないか。そのことを私は申し上げたいのでございます。  
なお、この漁場がなくなつて揚子江が対抗として取つてき  
たうは、網を化繊にかえて機織糸の場合には網が腐り  
ますので、これを乾燥しなければならぬ。従つてその間、操業  
できない。それを化繊にかえてそのまゝ継続操業ができる。  
出漁回数も多くて魚を取つて何となく水揚げをまゐた。  
その他捲網機、ネットホーラー、そういうものも入れて機械化  
して、この漁群の少なくなつたものを何とか補つてきた。  
ところが、それすら、今頭打ちになつてきてゐるという現  
状でございます。

いかに云ふうとも、煙を立てて直接の被害が揚子江  
網だということが出来ると思ひます。

従つて議員諸侯もこの点をもう一回よくお考えいただ

たいと思っております。

・議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。本請願に関する質疑は以上をもって打ち切り討論省略採決いたします。市議ありませんか。

(「市議なしと呼ぶ者あり」)

・議長(黒川佐太郎君)市議なしと認めます。よって採決いたします。

本請願書は、委員長報告の通り保留と決定いたします。ことに市議ございませんか。

(「市議なしと呼ぶ者あり」)

・議長(黒川佐太郎君)市議なしと認めます。よって本請願書は保留と決定さるゝことなり。暫時休憩いたします。

午前十一時五十分

休憩

午後二時三十分

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を明します。

午後出席議員数三十四名。

議事日程についておけりいたします。

日程第四案乃至第十九の二議案と一括上程し、各議案の説明を求めたいと思ひます。

これに中々異議ありません。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中々異議なしと認めます。よってこれより各議案日程第四乃至第十九を一括上程し、説明を求めます。

(書記朗読)



議案第八十六号

消防団消防自動車用ポンプの購入について

議案第八十七号

〃 〃 シンシーの

議案第八十八号

救急車の購入について

議案第八十九号

消防団員用補被服の購入について

議案第九十号

水槽付消防ポンプ自動車用シンシーの購入と

議案第九十一号

水槽付消防ポンプ自動車用ポンプの購入と

議案第九十二号

市有財産の処分について

議案第九十三号

市有財産の交換について

議案第九十四号

寄附の収入について

議案第九十五号

地切簡易水道本管新設工事請負契約

の締結について

議案第九十六号

地切簡易水道取水施設工事請負契約の

締結について

議案第九十七号

千葉市外九十九市町村の軽自動車税の賦

議案第九十八号

課徴収に関する事務を行なう取置の共同  
設置規約の一部を改正する規約の制定について  
館山市市税条例の一部を改正する条例の  
制定について

議案第九十九号

館山市国民健康保険条例の一部を改正す  
る条例の制定について

議案第一百号

館山市消防団員等々務災害補償条例の  
一部を改正する条例の制定について

議案第一百五号

館野小学校講堂改築その他工事請負  
契約の締結について

議案第一百六号

第二中学校技術科室増築その他工事請  
負契約の締結について

議案第一百七号

館山高等学校化学工業科校舎増築  
工事請負契約の締結について

議案第百一号

昭和三十八年度熊山市入次出追加更正予算

議案第百二号

昭和三十八年度熊山市特別会計と畜場追加更正予算

議案第百三号

昭和三十八年度熊山市特別会計休養施設入次出追加予算

議案第百四号

昭和三十八年度熊山市特別会計予スホス入次出追加更正予算

消防署長(若田実君)議案第百八十六号について中説明申

上げます。

第四分団第十部と申しますと、真倉、青柳地区でありまして、消防自動車ポンプは非常に老朽になっておりまして、ほとんど消防車として機能を發揮できないというふうな状況になっておりますために、その更新車として、本自動車ポンプを購入をお願いする次第でございます。

性能といひまゝでは規格で申しますと、B十九と申しまゝ、  
これは放水量で申しますと、一分間、五リットル、約八石の放水  
量を持つております。

放水圧力は、一平方センチメートルについて、七キログラムの圧  
力を持つております。

日本消防機株式会社は消防ポンプメーカーといひまゝ、  
非常に古い歴史を持つておりまゝ、日本三大メーカーの  
一つでございます。過去におきまゝても、消防署において  
四台、消防団において五台購入されておりますが、製品は、  
非常に確実でございますとともに、価格が安いのであり  
まゝ、今回も五社より見積りを取つたのでございます。  
が、同一の機装でありまゝ、どの会社より、五万乃至九万  
円安くなつております。

なお、この自動車ポンプは消防団でもつてございますので

地元よりニハナイ、負担をいかに減らすことになつておりまして  
この予算につきましては、当初予算におきまして予算  
措置をしておりますので、よろしく御審議のほどを  
願ひ申し上げます。

議案第ハナニ号について申し上げます。

この自動車シャシーは先ほど申し上げました自動車ボ  
ンプを積載するシャシーでありまして、プリンスの機装に  
つぎまゝでは、地元の部員、後援会等より非常に  
要望がございまして、私の方といたしまして、調査い  
たさるべくございしますが、現在プリンスの消防自動  
車というものは、あまりないものでございしますが、たまたま、

最近千葉県八街でもつて、この消防自動車を使  
つたのでございしますが、それをこちらに呼びこめてよく調査  
したうでございしますが、エンジン、シャシーともに非常に堅牢

でございましてこの十部が部長がこのエンジン関係について  
ても非常に詳しいのでございまして、価格、点もわかる機  
装は比ベヨーマ安いためこの機装が決定したものであります  
このプリンスはオイルベースがニメートル八十であります。完  
成しますと、中型の消防自動車となるのであります。が、  
道路が狭い当市といふに、ヨーマで非常に消防活動上  
有利であるわけがございします。

機装第八十八号の救急車を購入について申し上げます。

承知のように現在救急業務に使用しておりますノ六号  
車は、約六年前に中古車として購入したものでござ  
いまして、救急業務に或いは大失時、人員輸送  
等に活躍してゐてございしますが、型が古くまたエンジン  
その他老朽化を来しまして現在ほとんど使用に耐え  
ないという状態でありますので、なお、その上に本年う



四月法律が改正になりまして救急業務が若干法に義務づけらるるということになった関係上、現在の輻輳した交通事情のもとに救急業務は非常に市民の福祉に貢献するところが大きいということから我々消防関係者といひ、まして救急車の購入をお願いしつゝおつたうでございませうが、ようやく今回購入していただくことになったわけでございます。

価格は患者輸送用ベント、タンカ、赤色回転灯、拡声装置等一応救急車として装備一切を含んだ価格でございますので、やう承願したいと思います。

議案第九号消防団員の被服の購入について、先般明申し上げます。

消防団員の被服条制に基きまして四年に一着の割合で貸与することになっております。

本年度はちょうど貸与する年に當つておるわけでございますが、当初予算におきまして百二十万円の予算を計上したわけでございますが、大量の被服を購入するわけでございますので、我々といひましても、間違いがないように慎重にことを運んで参つたわけでございます。

まづ購入に対するに構えといひましても第一に四年間という長い期間着用いたすものでありますから、丈夫な布地で、あるということ、同時に予算の範囲内で購入するにめには、単価が適当なものであること、第三に水にぬれるようなことがあつてもなほ早くかわくということ、第四はなるべく市内の業者から購入したいということをに構えといひます。その結果、納入を希望する町社、市内の業者が二社、市内の洋服商組合が一、市外町の業者一社より布地、見本とともに

見積りを取り寄せたのでありますが、慎重に検討いた  
し、その結果株式会社という屋号を出さしめた單  
価上下二千二百五十円の品が四つの条件には合致  
するものと見て選ばれたわけでございます。

これは東洋紡のエクスランサージということございま  
す。現在市内の海員学校でも判販として着用して  
おるということを知ったのでございしますが、値段のわりに  
優秀であるという回答をいただきました。

帽子につきましては部長以上の幹部は制帽であり  
まして、単価が五百円、四十二個でございます。

それから部長以下の団員が着用いたします戦術帽に  
似たようなものがあり、これが単価四百七十円でありま  
す。これが四百四十二個と考えております。被服価格が百八万九  
千円、制帽二万一千円、略帽七万五千六百円、合計いたし



ますと、百十八万五千四百円とひるうでございまして、帽子、階級章、被服を含めまして一着分平均いたりますと二千四百五十円とひるうでございします。

以上概要を申し上げました。よろしくお願いいたします。議案第九十号につきまして、併し説明申し上げます。

ただ今、消防署の船形分遣所で使用しております水槽付消防ポンプは非常に老朽化しておりまして、昭和二十九年に市役所でもうすでに使用できぬといわれたようなトラックに古いポンプを積載いたしまして、これにタンクを積みまして消防車として修繕して使われておったようなわけでございます。いま、数年前から我々は、その更新をお願いいたします。いすずを我々が希望いたします。理由は、TMG型いすず車はボイルベースが三メートルでございまして、回転半径が六・二メートル

でございます。非常に消防活動上、適当でございます。  
当市のような狭い道路事情のところでもってタンクという  
ものをいって入ります。うで、なるべく強靱で可動が大  
きい機種がいゐるわけでございます。なお、いすず  
マシーは既に消防署といは、マシーでも、三台購入して  
おり、マシーも取置も非常にないで、おり、マシーも故障発見  
とか、そういう点でも容易でございます。マシーで、こゝいすずを  
購入希望いたします。次条でございます。

機案第九十一号について申し上げます。

これは、機案第九十一号のいすずマシーに積載する白  
動車ポンプでございます。これは、二キリトルのタンク  
を積むのでございまして、水は、ほかに現在非常に危険物  
大失火といったような大失火が多くなっております。関係上、化学  
消化装置といは、マシーで、百リットルの消化剤を同

よく積載いたしまして、危険物大災の際に水と泡と混合  
いたしまして、消化に当る。こういう考えのもとに積載する  
つもりであります。

・ 総務課長（山口実君） 議案第九十二、九十三号について中  
説明申し上げます。

本件は、元館野出張所の土地並びに建物を処分し  
うというものでございます。館野出張所は昭和三十  
二年三月、六カ村合併、最初の廃止に踏み切ったのでご  
さいます。

その理由は本庁に近しいということがおもな理由でござい  
ます。このたび、館山、茂原、道の拡充に伴いま  
して、現在使用しておる元館野出張所の土地に館  
野農協があらうてあります。この際出張所の土地  
を一括払い下げいたしまして、館野農協と一貫



一の事業をいたしたいということで本年三月七日に申請  
を出したのでございます。市はいらう状況をよく検  
討した結果、市としても将来この土地を持っていり  
農協に払い下げた方が効果的と思ひ、よて本年  
八月財産管理審議会に意見を求め、よて処分し  
ようというものでございます。

図面をお示し願います。二七五六、これは道路拡  
張に伴う買収予定地でございます。

二七五五、これは、二十五坪程度、現在野水池があり  
市で管理しようというものでございます。

次の料金の部分二七五二、これは本市請の坪数でござ  
います。

これは、農協が払い下げようというものでございます。  
次に九十三号の建物、処分でございます。

現在、市でもって使用している建物は、元農協の建物がございます。

ここにございます木造二階建、これが元、農協の建物で現在、市が交換して使っておりますでございます。

一、二が元、出張所、即ち市の財産でございますが、

これは四十一年経過しております。二も同様でございます。

す。こちらが交換によつて求めらる建物は、約二十五年程度経過しております。こちら、価格は、税務課、評価額を元にして算定いたしまして、差額を市にいただく。そういうことで、農協長さんも結構だということでお願ひしようというものでござい  
ます。

農産統計課長(伊藤幸太郎君)九十四号につき、よりて申し上げます。議案に示しより、通り市内の七農協より農産統計関係の業務のために自動車、寄付申し入れ

がございまして、私どもは、このありがたい中好意に對  
しましてお受けいたしまして、十分に活用して参り  
たい。こういうふうに考えますので、亦承認のほどをお願  
い申し上げます。

厚生課長（吉田耕一君）九十五号につきまして、説明申し上げ  
ます。純切簡易水道の本管新設工事、請負契  
約でございますが、西岬の見物ほか、四部落に今回新  
設しようとする簡易水道工事でございます。

去る八月二十日大島設備、太平建設、荏原建設、三井  
建設、久保田水道、この五社によりまして指名競争入札  
を行ないました結果、千葉市栄町二十三番地の大島設  
備株式会社が、一番安い適正な価格で落札いたしま  
して、千六百三十八万円でございます。この会社と請負  
契約を締結いたしたいと考えまして、上精進いたした次

第でございます。

なお、水道の施設概要等につきましては、別紙にござい  
ますので、省略していただきますと思います。

次々九十六号でございす。やはりこの地域の簡易水  
道に伴います取水施設でございまして、この新設の清  
負も同じく八月二十六日入札を実施したわけでござい  
まして、二百六十八万四千円で東京都千代田区神田佐々  
間町う日本地下開発株式会社は最低価格で落札  
をいたしたわけでございます。

従いまして、この会社と請負契約を締結いたした。この  
ように考える次でございす。

なお、取水指石会社につきましては、日本地下開発、三協工  
業、大正製薬、この三社によりまして、競争入札を実施  
した次でございす。

・税務第一課長（高木哲三君）議案第九十七号について中説明  
申し上げます。この改正理由は四月十日に千葉県泉町  
が千葉市に編入になり五月一日に市原市ができてま  
た関係で現在「千葉市はか九十九市町村」であつたのが  
「千葉市はか九十四市町村」になつたために改正をすまう  
になります。

・税務第二課長（多田俊一君）議案第九十八号について中説明  
申し上げます。今回、税法の改正に伴いまして一部改正が  
ありまうので、徴収事務関係につきまうて中説  
明申し上げます。

特に改めらうなというものについては、延滞加算金の廃止  
督促手数料の廃止、納期前納付の報償金の増徴  
切り捨て、この三つが主なものでございます。

延滞加算金の廃止につきまうて申し上げますと、従



来は納期が過ぎますと大体納付するまで、月、日、三銭の割で延滞金に課せられます。納期が過ぎて約十日後督促状を出し、督促状が出てから、十日目に三銭の延滞加算金を取らるわけでございます。

従いまして、納期が過ぎて督促状の指定期限というところございませんが、それから、今度日歩六銭の計算になります。それが今度の改正によりまして、納税者の負担軽減というふうなため、えから、督促状が出てから十日までは日歩二銭、十日が過ぎた十一日目から、日歩四銭、こういう二本立になります。従いまして、延滞加算金という項目はなくなりまして、延滞金ということになります。



延滞金と二銭と四銭というふうにきめられてございます。  
なお、督促手数料は従来一通について市におきまゝで  
は、十月の手数料を取つておたうでございしますが、これは、  
今までの税法によりまゝで、各市町村は条例によつて督  
促手数料を取らなければならぬというふうに規定されて  
おたうでございます。ところが納税者の負担軽減、  
それから、繁雑な事務を簡素化するというような意  
味で督促手数料を取ることは、各市町村が条例によつ  
て任意に定めるという任意規則になつたうでございます。  
この点につきまゝで、岡崎市川におきまゝで、県下十九市の  
税務課長会議がございまゝで、千葉県では督促手  
料は取らないということに決定してあります。

従いまゝで県が取らないものに対して、十九市が取  
るかどうかということにつきまゝで、同調歩調で行きたい

という格一合いがございまして大体日わう市は取らないという事になったのでございます。たまたま習志野市は、今まで三十月取つておたうでございしますが、既に改正法があると間もなく八月市会におきまして三十月取るといふことに議決一まうございまして、習志野市だけは三十月取るといふことになっております。

なお、安房郡におきましても、手数料を取らないということになっておりますので、いろいろ検討いたしまして、館山市におきましても大体暫新促手数料は取らないといふことになり、いいかと思つたわけでございます。

なお、納期前納付報償金、端数計算でございしますが、市承知通り、一年間分、税金を納めたときにその月数に応じて税額、百分の一の報新償金が出さるたわけでございます。それと計算いたしますと、非常に

小額な報償金が出るわけでございます。私の方で本人に通知を出しても取りにくくてくれない。ということでも私ども困っております。その点非常に問題点があったわけでございます。それと同時に端数、場合にこれはどうするかという問題があらわれてございますが、この点につきましても隔日の税務課長会議の席上、同一方向で進めたいということになりまして、大体十月末満う端数が出た場合、合に交付しない。切り捨てるということになったわけでございます。

条文でございますが、第二条は先ほど申し上げました通り、この中に延滞加算金という用語がございますから、これを削除することになっております。

第九条は延滞金、計算方法が書いてございます。第十二条は督促手数料の廃止、従いましてその条文を削除

する。第四二条のたぐい書の点につきまゝ、これは市  
民税の前納報償金と端数数切り捨ての問題でござ  
います。

四十三条は個人市民税の延滞金の計算、四十八条は、  
法人市民税の延滞金の計算方法、五十二条は法人  
市民の更正決定の延滞金の計算方法、五十七条で  
ございすが、固定資産税の納期前納付の報償金  
の計算関係でございす。

七十三条は、償却資産の場合でございすが、固定  
資産の申告に關する延滞金の計算方法という  
ふうになっております。

附則三項におきこゝで延滞金の計算に關する適  
用の規定でございす。十月一日から、四銭、九月三十日  
までは、三銭、四度が延滞金の計算方法について告知

をいにもうとみなすということになっております。

五項はすでに出されております。督促状は督促手数料は、適用するという適用関係でございます。以上よろしく申  
審議願います。

議長(黒川佐太郎君) 暫時休憩いたします。

午後 三時三十分 休憩

午後 三時五十三分 再開

議長(黒川佐太郎君) 休憩前に引き続き、今議を開きます。  
税務第一課長(高木哲三君) 議案第九十八号賦課について、  
説明申し上げます。

第九十八条の二第六号における期限の延長でございます。

五十四条の二項、これは、固定資産税の納税義務者とな

る土地または家屋の所有者に対して台帳の原則でございす。

建物、部分所有者の法律の適用を受けるものについてございす。これは、建売リアパート等について、各部屋とも評価するわけにいたしません。一棟の建物も評価いたしまして、あとは、専有部、床面積によって、按分して課税するものでありす。

第三項は償却資産は、土地、家屋のように登記簿がございせんので、償却資産台帳をもって所有者として登録されている者と所有者とみなして課税することになります。

四項から七項までは、固定資産の納税義務者は原則として、固定資産の台帳に所有者として登録されている者。四項から七項までは、台帳課税を責めることが不可



能てあるうで使用者等をもって所有者とみなし、固定資産を課することでございます。

四項は不可抗力によります震災、風水害、火災、その他理由によつて所有者も明らかなでない場合に、現在使用している者を所有者とみなして、課税台帳に登録して固定資産をわけまうであります。

五項、これは、企画整備事業または、土地改良事業施行中の土地の課税でございます。台帳課税方式の不合理的を是正するため、納税義務者は登記簿上の名義如何にかかわらず、仮使用地については、施行者以外、仮使用者、保留地については、それを取扱つた者をもつて、納税義務者と解するものであります。

六項でございますが、これは、公有水面埋め立ての使用課税でございます。

埋め立ての竣工前にその土地を普通の土地と同じに使用しているものについては、その土地について課税することができるということの規定となっております。

現在市では、船形港にございます埋め立て地が該法によりまして、十月末までに検査が完了するところでございますので、それから課税するようになります。

七項でございますが、これはここにはございせんが、信託金に等しいものを目的といたしまして、車両とか、船舶とかを貸してある場合は、その使用者に対して課税するというところでございます。

第六十三条の二これは先ほど申しました建築物の区分所有等に關する法律の適用を受ける場合、床面積だけでなく廊下とかロビー、そういう部分を接合するということには不合理になります。天井の高さとか付帯設備の程度とか

所有者全部で特等級づけて市長に報告するというのが規定されています。

六十七条、六十九条、七十条、これは字句の訂正でございます。  
七十一條、削除、これは、固定資産税の納期限、延長でございますが、十八條に規定されています。

七十五條、これは、固定資産にかかると申告に附する材料の項目でございますが、ここにございます。第三百八十六條、これは、過料規定を設けることとができてくるというものでございます。

八十條、第一項、小型特殊自動車と軽自動車税の中に挿入することになっております。今度道路運送車両の一部が改正になります。七月十五日に公布されます。これに伴いまして、地方税法の一部が改正されます。十月十五日から、今まで耕耘機が陸運事

務所において取り扱われておりまゝだが、今度市町村で取り扱うということになつておりまゝで、ここに小型特殊自動車を加えることになりまゝだ。

八十二条、これは小型特殊自動車を追加したものである。その他のもう、年額三千円、建設課にございマスバイブレーションローラーが該当するそうですが、当市にはございません。

八十三条、条旨の訂正でございます。

九十条、九十一条は小型特殊自動車を入れることになりまゝで、ここに加えたのでございます。

八十九条、九十五条、百九条、百十八条、これは全部の納期限の延長十八条に全部まとめたので削除するわけでございます。

・保険課長（池田亮山君）議案第九十九号、国民健康保険

条例の一部改正について申し上げます。

第四条の改正でございます。老人ホームに収容されておる方たち、被保険者の資格の問題でございます。

老人ホームに収容されておる方々は、生活保護法の規定によつて収容されておる方々でございます。

従つて国民健康保険の被保険者からは、法律において除外されるものであります。ところが今般の改正によりまして、老人福祉法は国民健康保険法の本法で除外される人々ではなくなつたわけでございます。一々しむばら、現在老人ホームに収容されておる方たちの生活条件と申しますか、保険料の負担能力、それから給付の関係におきまして、大きな病気につきましては生活保護法の適用を受けまして医療扶助が受けられるわけでございます。

従つてこの人たちは国民健康保険の被保険者とする  
ことは適當でないであらうといふことで、今般条例準則の  
修正を見なければなりません。

二十三条の改正でございます。督促手数料の条項でござ  
います。これを削除しようといふものでございます。

二十四条の改正でございますが、保険料の延滞金の計  
算でございます。

いづれも市税においてこれが改正される場合に当りまして  
国民健康保険料の徴収につきましても市税と同様の  
条件下に規定したい。このような意味から本案の改正を  
お願いいたします。

なお、附則につきましても各条項の適用並びに経過措  
置についてうたつてあるわけでございます。

・消防署長(岩田実君)議案第百号について市説明申し上げ



ます。消防団員、或いは消防団員でない方で消防作業に従事された方が、もし、公務によって負傷し、死亡された場合には、公務災害補償条例に基く、補償がなされるわけでございます。この補償条例は、昭和三十一年政令第三百三十五号で施行されたもので、非常勤消防団員等による災害補償の基準を定める政令という政令に基いて制定されておったわけでございます。本年の六月にその政令が改正になり、よりたために、この条例改正を提案した次第でございます。

消防団員、或いは消防団員でない方々、補償を行なう場合に療養費を除きまして、その他、費用はすべて補償基礎額を基礎として行なわれるわけでございます。補償基礎額が今回大幅にベースアップされたわけでございます。いま、消防団員の低い方が従来は、四百七十一円

でありまして、高い方が方でも九百八十円であつたもうが、  
低い方で七百元、高い方で千二百十円というふうには大幅  
に改正になつたわけでございます。低い方で約四六%、高  
い方で約二三%のベース・アップとなつたわけでございます。  
国員以外の方は、従来は、その方が死亡或いは、負傷さ  
れた前六ヶ月の平均賃金というふうなものでもって算定  
してつたのでございますが、これが原則は、第五条に  
ございますように七百元というふうには改められました。もし  
その方が得ておられる月額収入に比べて改正を大きくする  
場合には、千円以内までは、認めるというふうには改正に  
なりまして七百元から千円までを限り、大幅にベース・アップ  
したわけでございます。

なお、災害補償でございますが、第四条にございますように従来は、腕をひくーたとか、失明したとか、そういう

よう口非常に大きな障害の方は一級、二級の障害、腕を折  
つたとか、そういう方は十四級、十五級の障害というふうに障害  
の程度に応じて十四段階に分けておいたわけでございます。  
で、単なるそれは障害補償であつたわけでございます。  
それが第四条のよう、第一種障害補償、第二種障害  
補償と二つに分けて、第一種障害補償は一級か  
ら三級まで、第二種障害補償は四級から十四級まで  
こういうふうに分けてあります。

そういうしまして、第九条にございますように従来は、災害  
補償はすべて一回きりの補償で打ち切らなれたわけござい  
ますが、この第一種障害補償に該当する方は、その方  
が生きておつてかつ、障害が存する限り、毎年障害補  
償を支給される。こういうふうに改正になつたのでございま  
す。これは第九条に記載してあるわけでございます。

第七條は、療養補償を受けた場合に健康保険法の基準がない場合には、現に要した費用を支給する、これが追加になったわけでございます。

業務災害補償というようないことはいい、このことはいわでございしますが、もう一つの場合には、この条例改正によりまして、非常に有利になるということがいえるわけでございします。

庶務課長(干場伊右エ内君) 議案第百五号 館野小学校講堂改築その他請負契約について、説明申し上げります。

講堂が九十四坪五合、渡廊下六坪、合計百坪五合の建物と、石井工務店、館山工業株式会社、渡辺建設株式会社、計工務店、新井建設株式会社、田辺工務店、津島建設株式会社、関工務店、この八業

者によつて競争入札を行ないました結果、四百万円をもちつて田辺工務店に落れいたしましたので、同店と請負契約を締結いたしましたと思ひます。

次に議案第百六号でございますが、第二中学校の技術家室増築その他工事請負契約の締結でございます。

第二中学校の技術家室、七十七坪、家庭科室、四十四坪の増築工事でございます。九月二十一日に石井工務店、富士土木建設株式会社、高橋工務店、新井建設株式会社、山崎工務店、計工務店、関工務店、宇山工業株式会社、こうハ社を指名いたしまして、競争入札を行ないました結果、四百三十万円をもちて関工務店に落れいたしました。同店と工事請負契約を締結いたしましたと思ひます。

議案第百七号について、説明申し上げます。

館山高等学校の化学工業科校舎増築工事の請負契約の締結についてでございますが、百八十五坪を次の九業者を指名いたしまして、九月二十一日に指名競争入札を行ないました。

業者は、富士建設株式会社、計工務店、津島工務店、高橋工務店、宇山工業株式会社、渡辺工務店、石井工務店、大成建設株式会社、渡辺建設株式会社、入札の結果、七百三十五万円をもちまして、北条ニッパ田大蔵地計工務店代表取締役、計岩尾に落札いたしました。同人と工事請負契約を締結いたしましたと思えます。よろしく御審議のほどをお願いいたします。

。総務課長（山口実君）議案第百一号 昭和三十八年度館山市歳入歳出追加更正予算に入ります。

歳出の方から説明いたします。



議会費におきまして、交際費十万円計上いたしております。  
これは、自転車協議会の方から、議員団の方にも十万円  
処理するように指示がございまして、ここに交際費  
として十万円予算措置をいたしました。

市役所費について申し上げます。九節、賃金五十六万  
四千円は、現在あります。臨時取費十人分の年額の手  
算が計上してございまして、ここにこれから三月はで  
の十人分の賃金を計上したものでございます。

次に装繕費の二十四節の工事費でございますが、自動  
車車庫の新設でございます。現在、市の自動車  
でガレージの中に入らない自動車が五台ばかりございま  
す。二十五坪程度のガレージを借りまして、これを入れま  
うというものでございます。

次に国産掲揚塔新設工事、屋上に十万程度の経

費をやりまして依りたいと思ひまして計上いたしまして、次に諸費について五十万お願ひいたしまして三十二節において、事務研修費といふことで、既に事務研修費がないので、今回ここに五万円お願ひいたしました。次に委託料四十五万取戻の厚生委託費といふことで、お願ひしようというものでございます。以上でございます。

・消防署長(岩田実君)消防費の追加更正予算について、片説明申し上げます。

需用費二十一万四千五百円、この内訳を申し上げますと、九節の賃金六万四千五百円、これは八月二十日より消防署におきまして、市が給油取扱所を開始いたしまして、たために、女の用人を一人雇っておりますので、この賃金でございます。

二十四節の工事請負費十五万円でございますが、これは、中  
承知のように本年の三月消防署が建設されるので、新  
しい庁舎に入ったのでございますが、前にもお願いた  
してございますが、予算、関係上、完成を見なかつたう  
でございす。

車庫、東側が抜けてありまして、風雨の強い道とこ  
に消防車、上に雨のめぬ。ホースもゆてーよう。こ  
ういふような状況でございますので、東側に簡単な扉  
を設置いたしたいと思ひまして、これが七万六千円であ  
ります。

寝房用のボイラーでございますが、地下に八キリットル  
タンクが設置されておるのでございますが、ボイラーま  
でのパイプが非常に長いように思ふように重油が上つて参  
りませんで、中間に補助タンク二百リットル程度、タンク

を設置いたらないと思ひまゝで、こゝが一萬八千円、それから  
自転車置き場でございますが、こゝは、簡単なものですが、  
六百円ですが、取算も多くなりまして、またいろいろ軽自  
動車とかオートバス、そういったようなものを乗せて参りま  
して、非常に狭くて、雨がかりまして、おぼれてしまふ。こうい  
うために、こゝを拡張していただきたいと思ひまゝで、こゝが三  
万円以上、三つの諸経費といたしまして、一万円、修理工  
場を開始するわけでございますが、動力配線工事費と  
いたしまして、一萬六千円、経十五万円の施設と増設  
工事費をお願いいたらないと思ひます。

七、交際費でございますが、従来市長が消防長を兼  
務して、いろいろ他市と消防長等の交際際  
につぎまゝで、市長予備費の方から出ておたうでござい  
ますが、助役が消防長を兼務されるようになります。

こういつたようなことができないのでございまして、消防長交際費と一まゝで五万円計上さしていただきたいと思います、思ひます。

建設課長(新井重助君)土木費について説明申上げます。  
道路橋梁費のうち新設改築費におきまして、負担金百万円、これは、果道の改良工事に伴ひます、地元負担金でございします。

予定されておりますのは、古茂に千倉に属する道路の改良、長尾にいます改良工事、市役所前の舗装工事、この三カ所の負担金に二百万円でございします。

当初予算に百万円でございますので、不足額百万円、お願いする次第でございします。

次の調査費におきまして、十四万円追加をお願いするつもり、これは、市承知の通り、南房州有料道路の建設が具体化して参りまして、地元といたうございまして、

期成同盟会を結成いたしたのでございます。

それは去る六月に白河で各市町村長、或いは自動車業者、交通業者、その他が集まりましてここに期成同盟会の結成を見事した。その後、強力な運動を展開してありますので、同協会に對しまして十四万円、工事の早期完成を期したくここに計上したわけでございます。

都市計画の公園管理費でございますが、賃金二十万円、今年、夏に城山公園の雑草刈り等をいたしまして、今後なむる予定でございます。昨秋知事預り、ゆがはえておりますし、人夫がやうて相当の人がいるということで備品費において、草刈機を二台購入いたします。こゝを以て、草刈りをいたします。以上でございます。



・庶務課長(干場伊右エ内君)教育費について申上げま  
す。学校教育の指導費について七十三万五千円の減額をいた  
し、このが、これは、当初予算において指導主事の分を  
計上いたしたのでございますが、それ、九月一日をもちま  
て、今度果費の指導主事が参りましたので、吏員給  
金において、五十万九千九百円を減額いたしました。旅費で  
二万円減額いたしました。

取員手当において、六万二千五百円を、残一、五とを減額、  
報償費において、三万四千円、講師謝礼と一、五追加い  
た。まゝです。

小學校費において、百十四万二千円を追加、これは、報償費  
二万五千円、教育研究活動事業、講師謝礼と一  
で、計上いた。まゝです。

これは、補助金が一万円参ります。

備品費において七十三万追加をいたしまして、これは、理科教育の設備費でございます。これに、十五万円、理科教育の設備補助、小學校分が、烟小學校以下、六校分でございます。五十五万円の補助があり、これにて、その倍額の百十万円を計上するところ、当初予算において二十五万円を盛ってあったのでございまして、その差額八十五万円を追加にしております。それら特殊學級の設備費でございますが、これは当初二校分を見込んでございますが、それが国から一校だけ認められまして、補助の内定が八万円あったのでございます。

そこで当初二十八万円計上してございまして、それを十二万円減額したわけでございます。

次に負担金補助及び交付金、九万三百円でございます。

こゝは、学校安全協会、失済掛金の追加でございます。昭和三十八年度から、額が増額になりましたので、小学、~~中学~~九万三百円の増額でございます。

次は、扶助費で二十九万六千七百円、増加でございますが、こゝは、要保護、要要保護児童、給食扶助、教科書、学用品、通学、修学旅行扶助、それと当初予算に計上されたものよりも、国庫補助において、増額によって参りましたので、それを増額いたしましたのでございます。

中学校費、百十七万五千円の増でございますが、こゝは、備品費にふまえて、四十七万円、この内訳は、特殊学級、器具費でございます。こゝが二万円、それから、新技術、家庭科室、設備費でございますが、こゝは、四十五万円でございます。

こゝも、国において、約三十万の補助がございますが、その

二、分り一、六十万を支出するものでありますが、当初予算にお  
いて十五万円ありますので、ここで四十五万円の追加で  
ございます。

負担金補助及び交付金、六万五千五百円でござい  
ますが、これは、小學校費と同じように、導教安全共済掛金の増  
額でございます。

扶助費におきまして、五十八万六千円の増額、要保護、準  
要保護生徒の教科書、学用品、医療費、修学旅行費  
のそれぞれ増額でございます。

高等學校費において、十二万二千百円の増でございます。  
これは、食料費におきまして十万円、これは、定時制生徒の  
夜食費の補助、これが増額された結果、十万七千円、計  
上いたした次第でございます。

負担金補助及び交付金、二万一千八百円、これは、學校

安全共済の掛金でございます。高等学校と幼稚園は  
それぞれ本人が払ったものが収入として支出するということ  
でございます。

それから幼稚園費が十五万七千八百円は備品費におきま  
す。十五万円器具費として計上いたしまして、負担  
金補助及び交付金七千八百円、これは、学校安全会本人  
負担のものにここに計上したものでございます。

以上でございます。

・福祉事務所長(鶴沢実覚君) 第六款 社会及び労働施  
設費について、説明申し上げます。

生活保護費におきまして百七十二万六千円を減額いた  
しまして、本年の八月一日から老人福祉法が施行に  
なりまして、その関係でこの老人関係の生活保護費  
を新たに老人福祉費という項を設けまして、こちら

の方に移項コースに減額でございます。

第三項の児童福祉費におきまして、一万二千円を追加  
でございます。旅費において一万円、印刷費に  
おいて一万円、不足いたします。差額 報償費におい  
て、六千円、消耗品におきまして二千円を減額更正  
いたしまして。

四項の保育所費十二万四千四百円を追加いたしまして。  
十一節の消耗品費一万円、これは水道の消毒代四保育  
所分でございます。借料及び損料七千四百四十円  
を追加いたしまして。

船形保育園の敷地借上料でございます。当初予算に  
おきまして、二百八十坪分の借上料を計上してあるんで  
ございますが、敷地が狭いためにさらに六十二坪を借り  
まして、園の敷地を広げようというものでございます。



工事請負費で十三万二千五百五十円、追加でございます。  
塩素滅菌器設置工事費九万二千円。これは、渠条例  
によりまして、小規模水道のところに塩素滅菌器を付け  
なければならぬということになっておりますので、保育園  
におきまして、予算の関係で、びびりになっておりまして、  
のも、今回、四つの保育園に塩素滅菌器を設備しよ  
うというものでございます。それからプロパン取りつけ工  
事費として、四万五千円。これは、船形保育園だけ  
がプロパンの設備になっておいて、純真と館野九重  
では、薪で給食をやっておる状態でございますので、取  
替へ健康管理から申しまして、適当でございます。取  
りまして、今回、これを備品費から更正いたしまして、プロパン  
の施設にゆえようというものでございます。

負担金補助及び交付金で一万三千円、渠の保育

部の負担金といひ一ヶ月で六千八百円、四つゝ保育園みでございます。

保育部会第六部会というものは、安房郡、館山市の地域を申すのでございしますが、その負担金として六千二百円を計上いたしております。

福祉事務所費におきまして三万円、これは旅費の追加でございます。

五月一日づけの人員増にありまして保護係が四人あるわけでございますが、そのうち二人が今回福祉主事の資格認定の講習を受けさせましたので、そのために参加旅費一人一万五千円の負担金でございます。

福祉事業諸費でございますが十三万六千八百四十円の減額でございます。これは老人福祉費の関係で

敬老会関係の予算を減額更正いたしまして、老人福祉  
の方に持っていったわけでございます。三十二節の負担金  
補助、及び交付金のうち老人福祉センター建設補助金  
といったところで、十六万九千七百円を計上いたしまして、  
これは、県下の老人福祉を向上させるために千葉市の千  
葉大の敷地の中に老人福祉センターというものを建て  
ようということで、昨年市長会におきましてこの負担金  
の決議がなされたのであります。この工費が三千三  
百六十万、千葉市を除きまして十七市が負担金、三  
百万でございます。そううち鎌山市が十六万九千七  
百円の負担金、要請を受けておるのでございます。  
現在、鎌山市に居住しております老人は、百七十五名  
でございます。

日雇労働者、雇用奨励金負担金、三万九千六百

六十月でございます。これは、失業対策適格者手帳を持っております日雇労働者を雇用する場合に事業主に交付されるものでございますが、その奨励金を受けられるために負担金一人六千六百六十四月、六人分三万九千六百六十四月を計上いたしております。住宅管理費におきまして三万五千四百月を追加でございます。

これは、公営住宅の管理上不足いたした印刷代三千月、修繕料二万月、賠償及び償還金。これは、市営住宅に住居していただくものが、他に転居したために取ってあった敷金を返すわけでございます。

負担金におきまして公営住宅管理運営協議会、会費四千九百月でございます。

それから十六項、老人福祉費を今回新たに設けたわけ

でございます。老人福祉法というものが、八月一日から施行になりまして、その予算でございます。百七十二万六千六百円を計上いたしまして、これは現在老人ホームに収容されております老人の扶助費でございます。三千五百人分、八カ月分、百六十八万九千五百円を計上いたしまして、葬祭扶助費といたしまして、六千三百円で五人分、三万一千五百円を見込んでございます。

旅費として二万円、需用費におきまして五十七万七千九百円でございます。

賃金で二万五千円、老人福祉事務に携わる臨時用人料として、月五千円、五カ月分を計上いたしまして、

消耗品費、食料費、印刷製本費等は先ほど申し上げました敬老会関係のもうここに移動したわけでございます。

手数料といいたるもので、十四万六千四百円を計上いた  
るもので、これは、今回の老人福祉法の施行によ  
りて、老人の健康審査をやらなくてはいけません  
で、そのため予算でございます。

本年は、六十五、七十五、七十五、三段階の老人を  
対象といいたるもので、三百人分、一人二百円で六万円  
を計上いたるもの、なお、この健康審査の結果、精  
密検査を必要とするに及びますので、その三百人  
の二割と見まして、千四百四十人の六十人分を精密検査  
の分として計上いたるわけでございます。

負担金補助及び交付金で二十七万八千円を計上いた  
るものが、このうち、養老年金分は、福祉事務所費  
の分より、移記したものでございます。その他に老人  
クラブ助成費といいたるもので、三万八千円、そのうち、三万六



千円を老人クラブの助成費と一ヶ月クラブ一万八千円、ニクラブ分をここに計上してわけてございます。

あとの二千円は会議費等の負担金でございます。

・厚生課長(吉田耕一君)十五項の厚生援護費でございますが、一万五千円、これは、郡市の被爆者同友会等補助金いろいろ被爆犠牲者がございまして、郡市合せて六十数名あるようでございますが、その半数以上を羅山にあらゆるというふうなことで相当苦しいとやらというふうなことでございまして、そう同友会に一万円その他三十二節に不足を生じまして、五千円をお願いしようというものでございます。

次に保健衛生費でございますが大葬場費におきまして十六万円を工事請負費でお願いしようというものでございます。現在焚却炉四基がございまして、二基が薪の炉、二

基が重油炉でございまして、薪は現在使っておりません。重油は二基のうち一基を使いまして、一基がこわれておりまして修理いたしまして、二基完全なものでないというふうに考えてお願いしようというものでございます。

清掃費におきまして九十六万八千円でございまして、三十二節のうち十九万円、当初におきまして從來はゴミの収集方法において活用しようということから五百個程度を見込んでおたところでございますが、その結果がきわめて良いということになりまして、今年度中に千五百世帯程度ふやまして、来年の夏までには、特掃地帯と客居地帯の収集地区にいたらないということと、この補助金と七十九万円程度追加をお願いいたらないと考えるものでございます。

なお、二十節、二十二節につきましては、一、灰処理場、投棄  
かでございますが、今年度早々から処理場で処理する  
計画だったんですが、工事が遅れましてために現  
在まで捨ててあるというよう口関係からいまして、大  
石地域に対するものと、そろそろございます。砂防林組  
が管理をしておりまして、砂防林内を投棄場所とし  
てお借りいたしまして、いろいろ植物に被害を与えない  
よう口管理をお願いしてあるというよう口関係から、管理費  
を今回追加いたしたい。このように考えなければ、ござい  
ます。水道費でございますが、二十五万七千円でござい  
ます。賃金にもございまして、十二万五千円でござい  
ますが、従来取  
員でもございまして、鈴木さんという方が、今回退  
取のま  
で、臨時用入として、当分の間指導していただくと  
いうに、願  
いいたるわけでございます。この賃金が追加の  
おまな

るものでございます。

その他、二十五節の備品費でございますが、宮城水道におきまして、塩素滅菌器が古くなって、痛んだ関係から、これを取りかえたいというふうなことから、十万円程度をお願いしようというものでございます。

二十六節の原材料二万円でございますが、南条水道を水源池といひ、また大戸地域に、今回水道がない世帯が十戸ばかりでございます。特に地下水等もない地域でございますので、この地域を拡張工事をいたし、またパイプ代、原材料費でございます。

三十二節につきましては、支部の負担金というようになりますが、不足を見ますので、今回追加をお願いいたします。以上でございます。

・農産統計課長（伊藤幸太郎君）八款の産業経費のうち、

農林費、これはゼロでございますが、節間、更正追加でございます。当初予算よりパインの展示、実施にありまして、当初の計画より変更が生じまして、苗の購入補助金の十六万を削りまして、委託料を十六万追加いたしたいというわけでございます。

土地改良費の二百万余円でございますが、これは、中承知の石藤原の畑地灌漑工事を進めて、参っておきまして、ございします。当時予定より十六百万円の工事費では、どうしても仕事が終わるできないという見込みがつきまして、この際、二百万円追加補助を考えたというところで、今回二百万円をお願いいたしたいというわけでございます。

次の四項の構造改善対策費、賃金、これは臨時雇人料のものでございます。

十款の統計調査費でございますが、三十六万九千五百円、追加でございます。

これは新たに統計の委託を受けました事業所、漁業、漁業センサス等の調査に要します経費を各節ごとに計上したものでございます。

この経費につきましても、国の方から約八割程度の経費が参りますのでございます。

・商工水産課長（長谷川辰治君）産業経済費の中の商工費について中説明申し上げます。

負担金補助及び交付金は、市内街路灯五十三万八千に対して建設補助金といひまして、五十三万円を計上いたしております。

本件につきましても、一昨年の六月の議会に、関係五団体の名前をもちまして陳情があり採択をせられ



ました経過を持つものであります。旧市街各商店街が中心になりまして、商店街の整備、観光防犯等いろいろな観点から商店街の適当な個所に水銀灯を設置しようということでは計画をし設置をいたしております。

昨年第一期工事分として交付をいたしたものでございまして、本年第二期工事分として五十三灯でございまして、たゞ、これに対して一灯一万円の割で五十三万円を補助いたさない。かように考えて計上したものでございます。

・観光課長(小沢正治君) 観光費に關しまして説明申し上げます。

総額九十三万四千四百円の追加をお願いするわけでございまして、消耗品の六千四百円、これは事務用の用紙代或いは観光上の研究雜誌代等の追加でございます。

います。

広告料六万五千円、これは東京三大新聞、千葉日報社に  
対する観光宣伝の広告料でございます。

損料は、大体自動車や借り上げを見込んであります。  
委託料、これは従前あったのでございすが、本年度  
さらにこれを東京都下でスライドによる館山市の観  
光宣伝を実施したいということで一応三カ所を見込  
んで四万五千円をお願いするわけでございます。

工事請負費は、街灯工事費で不足分五千円お願いする  
わけでございます。

原材料一万円、これは、道路標識を交通安全協会、そ  
の他、応援団体もございすので、それからタイアップ  
して、道路標識の整備をして参りたい。その材料代で  
ございす。

次の補償金及び補てん金の五十万でございます。

これは、西岬地区におきます休暇村の建設具体化に伴いまして、見物漁協の建物、移転補償費でございます。

次の負担金補助及び交付金二十万円は、同様に休暇村がはつきりあそこに宿舍を建設することが具体化するに及びまして、土地の手続きが成功しなければならぬ関係上、現在、測量に入っておりますが、これは地元負担金でございます。これにつきましては、休暇村から十万円、委託費を館山が受け入れまして、館山の十万の負担金と合わせて、二十万を納入するという形を取ることになっております。

寄附金の十万でございますが、今夏富津で開催される「新南園花火大会」に際しまして、果の観光協会

主催によりまして、これに對しまして、館山市は十万円、  
寄附を是非も願いたいという要望でございます。  
で、その要望を受けて十万円寄付したいというもので  
ございます。以上でございます。

・総務課長（山口実君）九款財産費、三万五千円でございま  
すが、これは、財産審議会に必要な経費でございます。  
当初予算で計上しなかつた関係上、今回も願いたいという  
いうものでございます。

・選挙書記長（大嶋重義君）十一款選挙費について、中  
説明申し上げます。

選挙費、選挙費で十三万六千円、追加計上でございます。  
啓発費につきましては、国から委託費の増額交付の  
内示に伴いまして、これに見合う予算措置を講じた  
次第でございます。

大体本年度の啓発運動の国や県の方針が話し合い活動に重点を置いておりますので、選管におきましてもこの方針に添い添いで計上いたるに次ぎでございます。八節の報償費政治講の講師謝礼五千元、話し合いをするには、助言者を要請しなければならぬので、助言者要請のために講師に対する謝礼が一回三千元で四人分一万二千元、話し合いの際の助言者への謝礼一万五千元、一人五百円で三十人分というわけでございます。

消耗品の三万五千元でございますが、これは録音テープ代が五千元、啓発用のマツチを作る計画で二万五千元予定しております。

食料費の二万一千円、話し合いをする際の茶菓料でございます。

印刷製本費の四万五千円、これはポスター印刷を二万五千円、詰合いう際、テキストを印刷するが、二十円のものも千円作ていきといふもうでございす。

・税務第一課長（高木折口三君）十三款諸支出金、市税調査費について、説明申し上げす。

百六十五万二千円、追加お願いいたし、報酬の九万円、これは昭和三十九年家屋評価がえによる固定資産評価補助費の報酬でございす。

賃金百四十二万八千円、これは土地の評価がえによる農地の評点計算事務のため臨時用人員料でございす。消耗品十一万円、これは耕種機械のナンバーを十月十五日から市で取扱うことになり、ミーで、ハンバー代二千枚でございす。

修繕費二万四千円、八月から三月まで、八カ月分平均



三千円・オートバイの修繕を見込みまして二万四千円計上  
いたしまして。

・税務第二課長(多田俊一君)奨励啓発費二万五千二百円  
の税明を申し上げます。

賃金二万五千二百円、これは、納税組合関係、協力組合  
関係の事務を手伝ってもらふために臨時用人料一人  
三カ月分計上いたしまして。

六項の過年度支出金五万円は追加でございしますが、  
二十九節の賠償及び償還金五万円、これは、諸税  
過誤納還付金ということになっておりますが、これは法  
人税関係でございまして、還付しなければならぬとい  
うものが多くなつておるのでございまして、大体取年も  
十五万位出ておりますので、本年も当初において十万円  
見込みでしたが、今回五万円追加いたしたいというふうに

考えております。

企画室長（谷夏茂生君）四項の新市町村建設事務費について市説明申し上げます。

今回お願いしようとする追加三十八万二千八百円は、前の議会ですべて承認いさうで、現在、実施に入り、ヨーロッパ市勢振興総合調査の関係費用でございます。

報酬四千円は、調査バリエーションから建設審議会に招集関係で不足分を見込んでございます。文具費の三千円は、現在、これからいろいろ調査を進めていくために必要経費でございます。

食料費の六千円は、審議会に食料費は見込んでおりませんので、その分を見込んでわけでございます。

二目、企画調査費でございますが、旅費の三万五千円、先生方から調査を委託されていろいろな資料を現在取り

まとめられますが、全市内、前戸にまがりまゝで調査が今後もしきまるということが、予想されますので、行政に持つておきます。市の取組に一応調査の方をお願ひする予定で市内旅費を組んでわけてございます。

賃金の十一万二千円は臨時用人料と一でお願ひします。

消耗品の十一万八千円でございます。これは調査の内容が市内のみならず、安房郡部一月にまたがりまゝで調査をやさうな事態になつて参りますので、一応中学生を対象に郡部五千円からの生徒をお願ひして調査をするために文具費として二十円位の割合で五千円位の生徒にお手伝ひしていただくということで、これが大半でございます。

次の十三萬の食料費、四万八千八百円、先生方と市内の各界の代表を集まりに要する食料費でございます。

印刷製本費の五万五千円、大体調査がまとまりました。とくに二百五十部ばかりを印刷いたしまして、議会内部の各部、或いは審議委員の方々、全国市長会先生方、そういった関係機関にまとめたものを提供するというところで、印刷代を見込んでわけてございます。以上でございます。

・総務課長（山口実君）今回、歳出追加千三百七十八万九千二百円、歳出合計五億七千七百二十二万七千四百十円、次に歳入に移ります。

第一款市税千八百八十五千円は、市民税の個人分、固定資産税の土地、家屋、償却資産、国有資産等所在、市町村交付金、公社の納付金、これらの八月末の調定額より徴収計画の収入を考えた上で増収見込み得る額が千八百八十五千円でございます。

次に国庫支出金、果実支出金、雑収入については、今まで歳出で、説明さしよーに上からの交付、そういった確実な財源をここに計上いたしよーた。内容は各節によつて予了承願いたいと思います。

歳入今回追加額千三百七十八万九千二百円、歳入合計五億七千二百二十二万七千四百四十円、歳入歳出差引残金なし以上でございます。

・厚生課課長（吉田耕一君）次の特別会計と畜場、追加更正予算につきよーて、中説明申し上げたいと思います。

今回四万三千六百四十円追加というものでございます。当初におきよーて、冷蔵庫を作りよーたときに市債を起こしよーた償還が本年九月から入るわけでございます。そ、額がございまして、今回七万六千八百三十円追加をお願いしようというものでございます。

この財源といふに、もとより、繰越金と利子を更正いたしまして、財源といたす次第でございます。

・観光課長（小沢正治君）特別会計休養施設の追加更正予算について、説明申し上げます。

鳩山荘の会計でございますが、追加額四十五万五千円、その内訳といふに、もとより、倉庫の新築費で十四万七千円、これは当初予算で一応概算二十万程度のものを、ということとで計上したわけでございます。

いよいよふとんと格別するに当りまして、実際どこにどのような建築にいろいろか、建設課の技術員とも相談いたしまして、現地に参りますと、当初の考え方で参りまして、一応十四万七千円程度追加をいたすということになりましたわけでございます。坪数は約七坪でございます。備品の三十万八千円、これは、夜具でございます。夏に準



生用うふとんと百三十組、依ったわけでございますが、普通の来客に対してはふとん数が現在八十二組ばかりでございます。いま、定員に対しては、若干不足でありますので、この際、定員数を若干オーバーするものは、やはり確保して置きたい。特に今年秋の予約客が大分ふつつあるような状況でございますので、定員数を越える程度のもうを、この際、二十組のふとんを依って置きたい。かように考えても願います。

この財源といふことは、三十七年度の繰越金をもって全額充当いたらない。このように考えなければなりません。ユースホステルの追加予算につきまして、申請申し上げます。ユースホステルは、本年度当初予算が成立いたらないままに、遺後に臨時で計上いたらないままに、取員が本採用へ回った関係でございます。従いまして、臨時用人の賃金を更正

いた—ま—た。

正式取員の給料で一年分追加という形に変更せざるを得なくなつたわけでございます。

次に消耗品のスリーピングシートでございますが、ユースホステルでは敷布は特別でございます。このシートが全国ユースホステル協会で輪廻してゐるが、一番確実で安いわけでございますが、これも従前定員数程度しか持つておりませんで、たが、最近若干痛んでも参ります。今年うも天気々状況によりますと、洗濯するもが、たよつて新しいものがひくて困つておりますので、これを同程度の数だけ追加いた—ま—て、その場合に備へたい。追加の総額が五万五千八百円、これも前年度の賤源をもつて金額充當いた—たいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

・議長(黒川佐太郎君)今日の会議は、これにて散会。次回は  
明後二十七日午前十時開会といまいります。  
その議事は、本日に引き続き各議案の質疑といま  
す。散会いたします。

午後 五時十八分 散会

今日の会議に付した事件

一 開会

一 議長報告(出席説明者)

一 会議録署名議員指名

一 会期決定

一 市長議案提案説明

一 報告第九号

一 通告實況

一 請願書

一 議案第八十六号乃至第一〇七号 議案說明

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝藏

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井 正

黒川 佐太郎

菊井 敬博

志村 信作

小沢 惠太郎

関 武夫

飯田 義男

西村 真次

山口	山本	三	安藤	山田	鈴木	島野	江田	藤田
康	昇	天	龜吉	敬	孝	茂樹郎	德太郎	好強
	松本	高橋	安	鈴木	鴻田	荻生田	中村	保科
	藤太郎	文治	天德順	市藏	繁	七郎	者吾	忠夫

